

地図をもっと活用しよう！ その1

～地図活用の第一歩、「方位」の認識を育てる～



社会科の授業では、地図を活用することで、子どもの空間認識を育てることができます。

また、地図は、ただ地名を確認したり、位置を調べたりするためだけに活用されるものではありません。学習の対象となる事象の位置を地図で確認した上で、それを空間的な広がりの中で、事象間のつながり等について考えていくことも大切な地図活用の一つです。

そこで、授業グレードアップでは、地図活用の方法について、数回にわたり紹介していきます。

今回は、地図活用の第一歩となる、「方位」を意識させる指導について紹介します。

《小学3年生からスタートする地図学習と「方位」の認識》

小学3年生から始まる社会科で、地図の学習がスタートし、方位や方位磁針の使い方、地図記号を学習し、絵地図を読み取ったり、自分で描いたりする活動を行います。地図を読み取る際と描く際のどちらにも欠かせないのが「方位」の認識です。

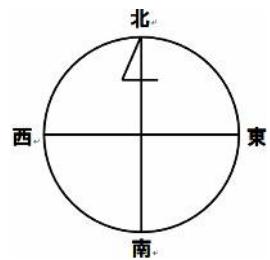
《「方位」を意識させる環境づくりと日常の働きかけ》

「方位」の認識を育てるためには、社会科の授業だけでなく、学級生活全体において、「方位」を意識させる働きかけをすることが大切です。

環境づくりの一つの方法として、教室中央の天井に、右のような、「四方位」を表示した紙を掲示するとよいでしょう。このような環境づくりを行うことで、子どもたちは、方位を意識するようになります。

さらに、教室中央の天井に掲示した「四方位」の掲示を基準にして、次のような働きかけを日常的に行えば、子どもたちの方位に対する意識をさらに高めることができます。

例えば、教室から他の場所に移動・集合させる際に、



次の体育の授業は校庭で行います。

教室から見て南にある鉄棒の前に集合しましょう！

と指示したり、子どもを指名する際に、

教室の真ん中から見て西の席に座っている〇〇さん！



などと、呼名したりします。

また、学校や地域における出来事等を知らせる際にも、次のように方位を意識させるようにします。



明日の見学学習は、〇〇スーパーマーケットに行きます。

〇〇スーパーマーケットは、教室から見て北にあります。

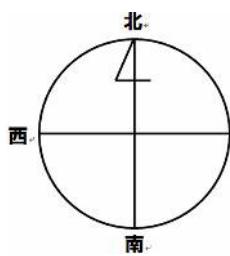
学校からおよそ500mほどの距離です。

昨日、教室から見て東にある〇〇公園の桜が満開になったそうですね！



なお、教室に掲示する「四方位」と「八方位」（※「八方位」については、4学年修了までに身に付けるようにする）については、子どもの実態を考慮に入れて、最初に「四方位」（①の方位の表示があるもの）を掲示し、次に「八方位」（②の方位の表示があるもの）を掲示するようにします。子どもたちが「八方位」に慣れてきたら、③、④の順に、徐々に方位を表示していないものを掲示するようにするとよいでしょう。これにより、「北」を基準にした方位に対する認識を高めることができます。

①【四方位】



「四方位」の表示有り

②【八方位】



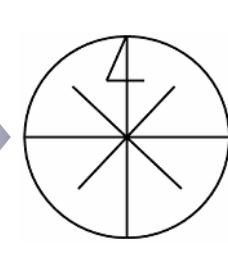
「八方位」の表示有り

③【八方位】



「四方位」の表示のみ

④【八方位】



方位の表示無し

小学3年生から、日常的に方位を意識させるこのような働きかけをすることにより、地図を読み取ったり、描いたりする上で必要な「方位」の認識を育てることができます。

